

主要木材の短期需給見通し(平成19年第3四半期及び平成19年第4四半期) の概要

1 国産材(製材用丸太)

製材用丸太の需要は、新設住宅着工戸数がわずかに減少するものの、木造住宅一戸当たり床面積は昨年並みと見込まれ、また、外材の高騰を受け国産材へのシフトが進むと見込まれることから、平成19年第3四半期は290万 m^3 程度(前年同期比(以下同じ。))103.6%)、平成19年第4四半期は330万 m^3 程度(99.3%)になるものと見通される。

2 米材

(1) 丸太

需要は、新設住宅着工戸数がわずかに減少するものの、木造住宅一戸当たり床面積は昨年並みと見込まれることなどから、平成19年第3四半期は82万 m^3 程度(98.5%)、平成19年第4四半期は83万 m^3 程度(105.8%)になるものと見通される。

供給は、需要動向を反映し、平成19年第3四半期は80万 m^3 程度(100.4%)、平成19年第4四半期は82万 m^3 程度(111.9%)になるものと見通される。

(2) 製材品

需要は、新設住宅着工戸数がわずかに減少するものの、木造住宅一戸当たり床面積は昨年並みと見込まれることなどから、平成19年第3四半期は79万 m^3 程度(97.4%)、平成19年第4四半期は84万 m^3 程度(98.1%)になるものと見通される。

供給は、需要動向を反映し、平成19年第3四半期は80万 m^3 程度(99.8%)、平成19年第4四半期は83万 m^3 程度(96.7%)になるものと見通される。

3 欧州材(製材品)

供給は、集成材用ラミナとして需要があるものの、欧州市場の好況やユーロ高などにより産地価格が上昇しており、在庫調整が進むと見込まれることから、平成19年第3四半期は74万 m^3 程度(99.5%)、平成19年第4四半期は75万 m^3 程度(95.3%)になるものと見通される。

4 南洋材

(1) 丸太

製材用丸太の需要は、梱包及びパレット向けの需要があるものの、産地高や資源的制約が見込まれることなどから、平成19年第3四半期は3万 m^3 程度

(98.2%)、平成19年第4四半期は3万m³程度(74.0%)になるものと見通される。

また、合板用丸太の需要は、新設住宅着工戸数がわずかに減少と見込まれることなどから、平成19年第3四半期は30万m³程度(99.9%)、平成19年第4四半期は30万m³程度(97.5%)になるものと見通される。

一方、製材用、合板用を合わせた丸太の供給は、需要動向を反映し、平成19年第3四半期は31万m³程度(71.9%)、平成19年第4四半期は31万m³程度(88.5%)になるものと見通される。

(2) 製材品

需要は、梱包材など一定の需要があると見込まれ、平成19年第3四半期は13万m³程度(96.4%)、平成19年第4四半期は13万m³程度(100.0%)になるものと見通される。

供給は、需要動向を反映し、平成19年第3四半期は13万m³程度(94.0%)、平成19年第4四半期は12万m³程度(95.1%)になるものと見通される。

5 [北洋材](#)

(1) 丸太

需要は、合板用原料として一定の需要が見込まれることから、平成19年第3四半期は115万m³(100.4%)、平成19年第4四半期は115万m³程度(104.6%)になるものと見通される。

供給は、産地における輸出税の引き上げにより供給の見合わせが見込まれることなどから、平成19年第3四半期は90万m³程度(81.4%)、平成19年第4四半期は90万m³程度(96.6%)になるものと見通される。

(2) 製材品

供給は、現地での製品輸出指向が丸太輸出税の引き上げにより一層高まると見込まれることなどから、平成19年第3四半期は25万m³程度(119.7%)、平成19年第4四半期は27万m³程度(108.7%)になるものと見通される。

6 [ニュージーランド・チリ材](#)

(1) 丸太

需要は、梱包及びパレット向けに需要が見込まれるものの、コスト高から合板向けの需要が伸びないと見込まれることから、平成19年第3四半期は22万m³程度(98.3%)、平成19年第4四半期は23万m³程度(91.0%)になるものと見通される。

供給は、需要動向を反映し、平成19年第3四半期は23万m³程度(108.0%)、平成19年第4四半期は23万m³程度(97.4%)になるものと見通される。

(2) 製材品

需要は、梱包及びパレット向けに一定の需要が見込まれるものの、産地価格などが上昇していることから、平成19年第3四半期は13万 m^3 程度(99.7%)、平成19年第4四半期は14万 m^3 程度(99.7%)になるものと見通される。

供給は、在庫の状況などから、平成19年第3四半期は13万 m^3 程度(90.4%)、平成19年第4四半期は11万 m^3 程度(75.5%)になるものと見通される。

7 合板

国内製造合板と輸入合板を合わせた総需要量は、新設住宅着工戸数がわずかに減少するものの、木造住宅一戸当たり床面積は昨年並みと見込まれることなどから、平成19年第3四半期は205万 m^3 程度(98.6%)、平成19年第4四半期は205万 m^3 程度(100.2%)になるものと見通される。

輸入合板の供給量は、需要動向を反映しつつも在庫の状況などから、平成19年第3四半期は120万 m^3 程度(96.5%)、平成19年第4四半期は123万 m^3 程度(93.0%)になるものと見通される。

国内製造合板の供給量は、針葉樹合板の需要が堅調であることから、平成19年第3四半期は81万 m^3 程度(98.7%)、平成19年第4四半期は83万 m^3 程度(97.7%)になるものと見通される。

8 構造用集成材

輸入集成材の供給量は、ユーロ高などによる産地価格の上昇や在庫の状況から、平成19年第3四半期は20万 m^3 程度(92.8%)、平成19年第4四半期は住宅着工動向を反映して、21万 m^3 程度(100.0%)になるものと見通される。

また、国内製造集成材の供給量は、需要が堅調であるものの、集成材用ラミナ製品がコスト高となっていることから、平成19年第3四半期は37万 m^3 程度(96.6%)、平成19年第4四半期は37万 m^3 程度(96.6%)になるものと見通される。